

加藤厚海・福嶋 路・宇田忠司 著

『中小企業・スタートアップを読み解く』
—伝統と革新，地域と世界—

芦 塚 格

近畿大学教授

経営学の教科書としての利用が念頭におかれている本書は、理論、概念の分野の多彩さ、事例の時間的空間的広範さが際立っている。経営学を中軸に据え、中小企業とスタートアップをテーマに経済学、社会学、心理学分野等の30に及ぶ多様な理論、概念を丁寧かつコンパクトに紹介している。Caseとして取り上げられた具体的事例に、関連知識としてColumnで扱われる内容も含めると、これまた30以上の事例を取り上げている。これだけでたいへん贅沢な内容であることが伺われるが、それら多様な理論、概念によって本質的理解を促す事例を選定し、その勘所を読み解いて示しているのが本書のもう一つの大きな特徴である。事例の広範さからすれば、教科書の枠を超えて経営学の多彩な事例分析事典の印象さえ抱かせる。

序章では、本書を効果的に利用するうえで、著者らが工夫を凝らした本書の構成についてその意図、考え方が説明されている。

本書の特徴は、「読み解き」と「時間、空間への注目」であること。「読み解き」とは、中小企業、スタートアップに関する現象を、経営学の観点から多様な概念、理論を用いて理解すること。「時間、空間への注目」とは、過去、現在、未来という時間の流れと地域と世界という空間の広がり意識していることだという。副題の「伝統と革新，地域と世界」にはその思いが込められている。

換言すれば、歴史を重ねてきた中小企業から現在のスタートアップへという時間の流れが本書の縦糸である。そして、日本国内、伝統産地の中小企業から世界各地のスタートアップ、またグローバル展開するユニコーン企業までを広範に取り上げることが横糸となり、テーマを織りなす構成をとる。経済活動の器としての中小企業、スタートアップとそこで生じる経営現象を虫の目で追っていくうちに、国内から海外へ、伝統産業領域から先端的産業分野へと視野が移され、地球規模の経営現象のイメージ素描を自然に鳥の目で促している印象である。

また、平易な説明に徹しながらも、理論、概念を用いた事例の読解では、理論を介して事例の理解が腑に落ちる経営学の肝に触れる感覚を得られるのではないだろうか。すなわち、実際の経営現象を解き明かすうえで、他分野の学問的知見を貪欲に取り入れ、背景に隠れた影響力、因果連鎖などを含め、大局的に経営現象の勘所を探るという経営学的嗅覚を体感できる。

このような特徴をもつ本書は、3名の著者によって執筆されている。はしがきに記されたとおり、それぞれの得意分野にもとづいて執筆されたとのことであり、それが本書の特徴に繋がっていると理解される。得意分野とは、著者3名それぞれが研究活動を積み重ねてこられた研究対象であり、拠って立つ理論的視角、その視角を用いた分析と発見事実を指す。

著者紹介において示された主要著作から各著者の具体的な得意分野が理解できる。ここでは著書のみを取り上げるが、本書の構成と照らし合わせてみると、得意分野による分担となっていることが浮かび上がってくる。

伝統的な地場産業の産地など、地域に根づいた中小企業を扱う第1章から4章担当の加藤厚海氏の主要著作は、『需要変動と産業集積の力学—仲間型取引ネットワークの研究—』であり、中小企業とくに東大阪地域の金型産業を中心にした産業集積における分業構造の柔軟性についての研究。

現代の起業家やスタートアップを分析する際の理論的視角や物理的、地理的、制度的環境を扱う第5章から第8章担当の宇田忠司氏の主要著作は、「言説間の（再）接続と切断としての制度化—フリーランス研究における騎士・従僕・英雄言説—」であり、企業家にとってのコンテキストとしての制度に対する社会学的アプローチやマイクロ組織論、組織行動論等をベースにした研究。

スタートアップやベンチャー企業を取り巻く環境の変遷、アントレプレナー・エコシステムを扱う第9章から第13章担当の福島路氏的主要著作は、『ハイテク・クラスターの形成とローカル・イニシアティブ—テキサス州オースティンの奇跡はなぜ起こったのか—』であり、米国、テキサス州オースティンのハイテク企業によるクラスターの形成・発展プロセスにおけるスピノフの連鎖とネットワークの機能等についての研究。

これら著者3名それぞれによる独創性に富む研究成果が要約的に凝縮され、その内容が本書の構成を特徴づける投錨地点となっている。それら研究成果を基点に各著者の視角から当該分野のさまざまな事例とその読解が加え入れられ、紹介されている。

さらに、本書には経営現象の大局的理解へと開かれた視点を感じさせる要素が含まれている。一例として、第8章にはホーソン研究の記述

があるが、経営学における人間関係論の先駆けとして通説を紹介するにとどまらず、人間関係論とは異なる物理的、地理的環境など空間に注目する他のアプローチの存在を紹介し、人間関係論のみから捉えることへの批判が提起されていることも紹介している。現象理解についてのこうした理論あるいは分析視角への批判は、程度の差はあれ、健全な検討が加えられていれば不可避なものであることを初学者の段階から知る機会となる。すべての理論、概念についてそのような詳細を記述することは本来の教科書の目的を逸脱することになるが、とくに流布している理論に限って、批判的視点の存在を知らしめることは、初学者にとって理論、概念への妄信を戒める教訓を示すものと理解できる。

経営学の教科書でありながら経営現象そのものを大局的に捉え、経営学理論の修正、更新に開かれた姿勢を有することは、経営学が決して教条的体系ではないことを伝え、本書への信頼を高めこそすれ、減じることはないものと受け止められる。

はしがきでは、本書が想定する読者、利用方法について言及されている。大教室での講義の他、ゼミ等で活用できること。大学院を目指す学生、社会人、起業に関心のある高校生などの知的探求のきっかけとして利用できることである。

大教室講義であれば、参考図書やレポートの課題図書としての活用が想定される。

学部での演習等においては、輪読文献とすることの他、様々なトピック、事例、理論、概念に触れ、卒業論文のテーマ設定のヒントを得ることも役立つであろう。研究対象の選定、リサーチエスチョンの導出、理論的フレームワークの設定などにあたっての参考にもできる。

学部での利用から進んで大学院講義での活用も想定される。研究対象とする事例について、どのような理論的アプローチができるのか、またその理論的フレームワークを用いた分析によって何を明らかにできるのかについて、豊富に

ヒントが示されている。その際には、多様な理論を紹介する本書の参考文献リストが有用である他、「さらに学びたい方へ」として示される発展的な文献を参照できる。

経営学部、商学部、経済学部以外の学生、社会人、高校生などにとっては、経営学に触れようとする際の啓蒙書としての役割が期待でき、知的探求のきっかけになるであろう。

事例を読み解く記述の中で、経営学がいかに関与しているのかを探索していくことができる。どのような読者であっても、知識の獲得に留まらず、現象の背後の隠れた影響力に踏み込み、より深い因果連鎖から経営現象の論理を読み解こうとする嗅覚が鍛えられるのではないだろうか。

本書の読者が身近な経営現象を自分でも読み解いてみたいという誘惑に駆られたとしても不思議ではない。経営学が扱う学際的な概念・理論は読者を学術的な探求に導き、学問的創発を促す問いを持つきっかけにもなるであろう。

本書『中小企業・スタートアップを読み解く一伝統と革新、地域と世界』は有斐閣ストゥディアと名付けられた大学向けテキストシリーズに収められている。シリーズでありながらも、分野の特性に応じてテーマ、タイトルなどかなり自由度があり、仕様、構成においても細かな工夫がみられる。

各章の扉頁には「アイキャッチ」として章のテーマに関連するインパクトのある図表、写真が置かれ、また、「QUESTION」「KEYWORD」「THEORY & CONCEPT」「EXERCISE」「Book guide」「Movie guide」が配置される。平易な記述であることはもちろんのこと、現代の教科書に求められるであろう単調に陥らず、本文にアクセントとリズムを挿入し、思考を巡らしながら読めるよう配慮されている。特にデジタルネイティブ世代を意識した映像資料紹介「Movie guide」の配置は、映像資料の流転の速さと書籍としてのライフサイクルとのバランスを考えればリスクにもなるが、あくまで読者

ニーズを優先しようとする姿勢を感じさせる。ちなみに、本書は電子書籍版も同時公開されている。

本書には「Case 一覧」、「Column 一覧」および「glossary 一覧」（用語解説）という別枠の目次が設けてあり、たいへん有用である。また、索引についても、目次に、事項索引、組織・地名等索引、人名索引について掲載頁が記されているように様々な細かな配慮が伺われる。利用者はもちろんのこと、教科書出版を検討する場合、一つの手本になりそうである。

【参考文献】

- 宇田忠司・高橋勲徳（2015）「言説間の（再）接続と切断としての制度化—フリーランス研究における騎士・従僕・英雄言説—」桑田耕太郎・松嶋登・高橋勲徳編『制度的企業家』ナカニシヤ出版、362-383。
加藤厚海（2009）『需要変動と産業集積の力学—仲間型取引ネットワークの研究—』白桃書房。
福島路（2015）『ハイテク・クラスターの形成とローカル・イニシアティブ—テキサス州オースティンの奇跡はなぜ起こったのか—』白桃書房。

（有斐閣、2023年9月、xiii+298頁、2,400円+税）